

地元産業界等との連携の実施状況（令和3年度）

◎地元産業界等との地域の課題解決に向けた連携事業の実施状況

◆地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）を通じた地域課題解決の取り組み

事業名称：「豊かな心と専門的課題解決力を持つおおいた地域創生人材の育成」

本学では、平成26年度に文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、本学の建学の精神である「産学一致」に「人間力の育成」「社会・地域貢献」を加えた教育理念に基づき、それまで実績を上げてきた産業界・地域社会を意識した実践活動を主体とした全学での人間力教育をベースとして、地域課題である少子高齢社会を豊かに乗り切るために必要な専門的課題解決力を兼ね備える「地域創生人材」育成へ発展させ、これを地域との実践的協働活動により実現する取り組みを実施している。本事業は補助事業終了後も連携先との合意に基づき引き続き実施している。

i. 連携している地元産業界等の組織名称：

- ・大分県（平成26年3月に「地（知）の拠点整備事業」副申書により連携）
- ・大分市（平成19年8月に包括連携協定締結）
- ・豊後大野市（平成26年2月に包括連携協定締結）

ii. 当該連携事業における地域の課題、その課題解決に向けて設定した目標：

大分県の発展・飛躍の方向性の一つとして「人口減少社会を見据えた特徴ある地域づくり」を定める必要性が挙げられている。本事業では大分県全域及び県内の少子高齢化が深刻である地域（大分市佐賀関地区、豊後大野市）を対象に、これからの少子高齢社会を豊かに乗り切るために必要な地域課題の解決を対象とする。連携先と合意した本学が解決を図ろうとする地域の課題は以下の7つである。

- （1）小規模・高齢化が深刻な集落におけるコミュニティの維持・活性
- （2）人口減少社会を支えるための先進的な“ものづくり”
- （3）自然の積極的な活用による保全と地域活性
- （4）地域商店・商店街の活性による地域振興
- （5）健康増進・生活支援によるコミュニティの維持
- （6）NPO法人の活動・経営支援
- （7）地域ブランドの発掘による交流人口の増加・産業の活性（6次化）

<課題解決に向けて設定した目標項目> ※各年度の達成状況は別紙参照

【教育】地域志向科目数、地域志向カリキュラムの再編成、副専攻制度、正課外活動「大分チャレンジワード」の導入、地域志向科目を履修した学生の満足度、ジェネリックスキルの育成、県内就職率

【研究】地域との共同研究を行う教員数

【社会貢献】地域向けボランティアの活動数、地域向け公開講座数、県民の本学に対する本事業分野の地域貢献度の評価

iii. ii の課題の解決に向けて実施する取組みの内容 :

県内の少子高齢化が深刻である地域での「体験交流活動」「課題解決に必要な知識の修得」「ステークホルダーとの協働による課題解決型学修」を可能とする教育カリキュラム体系への全学的な再編と社会貢献活動との有機的な接続、それに基づく研究プロジェクト活動の推進を実現する地(知)の拠点改革を実現し、地域力の向上につなげる事業を実施している。

令和3年度は、iiで示した7つの課題及びその基盤となる活動として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえながら、40程度のプロジェクト活動を全学、各地域で展開、実施している。

本活動の取組み方針については、令和元年度以降の取組み方針、令和3年度の取組み方針としてそれぞれ別紙の通り連携先と合意しており、地域へのフィードバック体制、事業の評価体制、継続的な協議の実施のサイクルを構造化している。

なお、本年度の3自治体及び地元民間オブザーバーとの合同会議である連携推進会議は令和3年7月に開催した。地域へ成果を発表・還元する地域報告会は、令和4年2月を予定していたが、感染拡大防止のため中止した(個別の取組みのフィードバックは随時実施)。本年度の取組については、令和4年3月29日に3自治体と民間委員を含む外部評価委員会にて事業評価を受け、次年度の方針に反映した。

◎地元産業界等と連携した実践的PBLを含む授業科目等の開講の実施状況

◆科目名:「プロジェクト2(地域づくり実践応用)」(2年・通年・2単位)

i. 連携している地元産業界等の組織名称:

一般社団法人ぶんご大野里の旅公社(平成28年3月に連携協力協定締結)

ii. 当該授業等を実施する学部・学科: 工学部 建築学科

iii. 当該授業等を開講する目的:

大分県豊後大野市三重町市場通りは、豊後大野市の中心部に位置し、昭和30年代頃までは日向街道と岡城路(竹田~臼杵)が交わる重要な宿場町として栄えていた。当時の写真からはハイカラな街であった様子がうかがえる。また、水が豊富に湧き出る場所でもあり、「泉町」という地名が残っていたり、種田山頭火が立ち寄った湧水なども残っている。しかしながら、交通の中心が他地域へ移っていく中、当地も衰退の波にさらされており、地域や商店街をいかに活性化していくかの課題を抱えている。本授業では、本学COC事業の方針に基づき、一般社団法人ぶんご大野里の旅公社と連携して、歴史ある市中心部でありながら衰退が進む三重町市場通りや周辺地域において、誘客策を検討、提案、実践することにより地域活性化を実現することを目的にPBL授業を毎年度実施している。今年度は上記目的を中心に据え、コロナ渦における地域活性化、昼間の集客のみならず、夜間の集客策や光環境の改善についてもゼミ活動と連携した解決をはかることを目的とする。

iv. 当該授業等の具体的な内容

平成30年度より里の旅公社と連携して、登録有形文化財でもある里の旅ものがたり館・絵本屋「あっそうか！」を拠点に、通り一帯をノantanARで楽しめるイベント「絵本パレット」を開催（10～11月）し、本学科の学生たちは、あっそうか！周辺の3地点をノantanポイントとして、インスタ映えするスポットに改修し、来訪客に楽しんでもらうことができた（令和元年度、令和2年度はコンセプトを変更して同内容をベースにPBL授業を毎年実施）。

本年度は、コロナの感染拡大状況、本学の地域活動の方針等を踏まえ公社と協議した結果、以下のテーマで実施することとした。

- 新たな商店街活性化イベント「かたるみえ」（令和3年10月開催）において、灯籠・竹ベンチの提案と制作、当日のイベント運営を通じて、光環境の改善や商店街の再生へ貢献する（地域課題解決のきっかけ作り）
- 継続的な商店街活性化（地域住民や観光客が訪れたいくなる街）へとつなげていくための集客性のあるシカケ（コト消費のアイデア等）の提案を現地関係者と協力して進めていく
 - 現在あるものに対してちょっとした改善策
 - 学生が関わる内容として来年の取り組みに反映することで集客につながる提案

これらの活動を現地研修と学内ワークショップを組み合わせたPBL授業として実施している。

以上